



《発行所》

青山同窓会
〒951-8127 新潟市関屋下川原町2-635
新潟県立新潟高等学校内
TEL 025-266-5268
FAX 025-266-5268
《編集、発行人》
上村光司
《印刷所》
オリオン印刷 ㈱
〒950-0963 新潟市南出来島1-19-1
TEL 025-283-2151
FAX 025-283-3804

ごあいさつ

青山同窓会会長 上村光司(50回)



二十一世紀が明けました。同窓各位のご活動の様子を見聞きするたびに、心強く思っています。新しい年、青、壯、寿それぞれに好き日々に恵まれますよう願っております。

今年が母校にとっても記念すべき年。四年がかりで建築を進めて来た新校舎は、間もなくブルーが完成、あと弓道場とグラウンド整備を待つことになりました。その「校舎竣工及び創立百周年記念」の式典と祝賀会は十月二十日(土)に行なうことになりました。百周年は来年に当たるのですが、新校舎の完成に合わせて一年早く祝意を表する次第です。

記念行事については、同窓会、PTA、学校の三者で実行委員会をつくって検討中ですが、あらかじめご理解願いたいのは、一つは記念式典を新校舎内で行なうことです。百周年の時は、大きな節目ということもあつて新潟市体育館で行ないましたが、今回は新校舎の竣工を祝う意味合いから、式典は校内で行なおうということになりました。予定は新体育館ですが、全体のスペースは広いのですが、幾つかの区画に分けられているので、最大区画で千七百人程度の収容力です。在校生千二百人、同窓会、PTAの振り合いなど、どう調整しようか、体育館全体のスペースをどう生かすかなどが課題になります。祝賀会はホテル新潟になる予定ですから、収容力十分。多数のご参加をお願いいたします。

もう一つ、平成十三年の青山同窓会定時総会は例年どおり七月に開かせていただくこうと考えています。予算をはじめ議決事項がありますから、祝賀会と一緒ではまずいと考えます。さて、毎号の会報などをお願いして来ましたが、記念事業のための募金は、皆様のご協力により同窓会目標二千五百万円にあたり同窓会目標二千五百万円にひと息のところまで来ました。御礼申し上げるとともに、引き続きよろしく願いたいと思います。ステージ幕や柔道場の畳など、時機を失しないよう前倒

新年のご挨拶

新潟市長 長谷川 義明(61回)



青山同窓生の皆さん、新年明けましておめでとうございます。西暦二〇〇一年、二十一世紀

して処置してまいりました。ご了承承りたきたいと存じます。ところで青山百年史を見ますと、百年前の二十世紀初年(明治三十四年)に「八月、新潟県立新潟中学校と改称す」とありました。「新潟県尋常中学校」として創立、「新潟県中学校」「新潟県新潟中学校」と変更のあと、昭和二十三年の新制「新潟県立新潟高等学校」発足まで半世紀近く続いた校名の始まりでした。その「新潟高等学校」もすでに半世紀を過ぎました。「シンチュウ」から「ケンタカ」へ、思えば長いようで短かい、短かいようで長い。ただ、新しい四代目の校舎まで、ほとんど同じ場所が学び続けているのは、同窓の縁(えにし)を紡ぎ続けて行くうえで、助けになると思います。

青いもので、私も市長職を担って十年が過ぎました。市政は日々、新たな課題が生まれ、市民の皆様も、ますます多様化しています。私は、これからも一日一日を大切にしながら、初めて市長に就任した日のこと、身の引き締まる思いを、決して忘

新年のご挨拶

衆議院議員 吉田六左工門(66回)



れることなく、市政運営に邁進していきたくいと決意を新たにしています。同窓の皆さんは二十一世紀にどんな夢をお持ちでしょうか。皆さんが社会の様々な分野で目ざましい活躍をされている様子は、私の誇りでもあります。これからも、それぞれの夢の実現に向け、ますますのご奮闘を心からご期待申し上げます。年頭にあたり、青山同窓会のご発展と、皆様のご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

扇千景大臣を補佐し、国家と国民の為に精一杯の努力をいたす覚悟であります。青山同窓生という、えにしで、ご支援いただいた諸兄に心から感謝申し上げます。日本国をとりまく諸問題あまた、昨年の例では、北朝鮮に対する日本からの援助米の麻袋に日の丸を付けて援助国を明確にするために主張して、実現する事が出来ました。今年、特に、韓半島、タイ・中関係、ウラル以東ロシアとの

関わり等、北東アジア協力小委員会をあづかる者として、その責任の重大さを自覚しており、この立場で、思いを新潟に馳せて働くなかで、あまりにも多くの同窓諸兄が各方面でご活躍の事を知り、あらためて母校青山の威光を再認識し、この学校を出たことに誇りを強くしております。

## 東京青山同窓会平成十二年総会

### 於 ホテルニューオータニ

平成十二年十一月十七日、日中からのあいにくの雨にもかかわらず、一二〇名に及ぶ参加者を迎え十二年度総会が開催されました。

近年、春の新人歓迎会を充実させてきた甲斐あって、100回生以降の若い参加者が多く会場は若さあふれる熱気に包まれ、斎藤英四郎名誉顧問も目を見張られておられました。

中でも東大野球部の女性投手竹本恵さんの潑刺とした姿が印象的です。議事も105回の柳通こげえさんの微笑ましい司会によって軽やかに進み、各報告がつつがなく承認されました。

新潟からは上村会長、宮沢校長をはじめ5名の方が遠路ご出

に一致したとき、「66回卒業です」と、この一言で全てを解決するのですから。二十世紀から二十一世紀へ大きな節目を乗り越えて、新たな精進をしようではありませんか。会報を通じて、ご挨拶ができませんことを、ありがたく感謝いたします。

続くアトラクションでは、日本でただ一人の「オペラ落語家」ウーロン亭ちゃ太郎さんの軽妙な話術で盛り上がり、最後は新旧校歌斉唱、ホールを揺るがすような応援歌でのエール交歓でお開きとなりました。

皆様の清々のご発展をお祈りいたします。

席くださり、新潟の近況報告と当会開催のお祝いのお言葉をいただき、また関西支部からの代表として83回松本和彦氏(事務局長)が参加され今秋の会合に五〇名もの参加者があつたことなどの報告を聞き、関西の熱気を感じ東京としても一層頑張らねばとの思いを深めました。



82回 日下部朋子(事務局長)

## 第四回関西青山同窓会に出席して



柿島 裕(83回)

○名弱の参加者だったとはいえ、盛況の内に終えることができました。

開会のご挨拶は、恒例により会長佐藤幸治氏(64回卒・京都大学大学院法学研究科教授)今まさに法曹界の大変革の要ともなる司法試験の改革とロースクール構想の実現に向けて東奔西走されておられる佐藤氏より、毎回、生々しい政治の世界についてのお話が聞けるといいうのも「関西青山同窓会」ならではの



去る十一月二十二日(土)、

同窓の北場氏(67回卒)のご尽力により、昨年同様、大阪ガス(株)の備後町ホールにて、「第四回・関西青山同窓会」が開催されました。83回卒の松本氏を事務局長とする「関西青山同窓会」は、同氏の熱心な準備と勧誘の成果が実り、四回目を迎えた本年も、昨年より若干少な目の四

(特にタイ)ビジネス体験から感じられた実践談についてのスピーチ。また青木氏からは、年配者の同窓に向けた暖かい配慮からか、ご専門の年金制度の行く末について詳しいお話を拝聴した。

いずれもスピーチを超えた「講義」にちかく、改めて多士済済な同窓の人脈に感服したひとときであった。

ここで私感ながら、特に関西が持つ同窓会への思いについて触れてみたい。

上越新幹線の開通以後、まさに新潟の隣町となつてしまった東京と違い、関西と新潟の時間的な距離は、私が学生時代に初めて関西へ出てきた二十年以上も前と実はほとんど変わっていない。当時、関西の学生の感覚では新潟は遙かに遠い世界だったが、我々にしてもせいぜい修学旅行で行くところぐらいの認識だったように思う。さらに同じ関西でも、京都はともかくそれより西の大阪以西になると、全く新潟から隔離されてしまったかのように感じたものである。同窓会という存在は、個人差はあるとしても一般に卒業して年齢を経るほど、また郷里から遠いほど、大きな存在になるらしく、関西に在住、それももう新潟に帰る可能性のない人ほど大

切に感じているのではないだろうかと思う。

今回で四年目を迎えた「関西青山同窓会」は、当初は当然初対面の方々ばかりだったが、次第に顔なじみもでき、世代を超えた交流も深まりつつあるように思う。年にたった一回ではあるが、何かの縁で遠く新潟から離れた関西を居住の場とするようになった同窓が、共通の青春体験（高校時代）を持っていて、ということの心の絆を深め合え



ることはとても素晴らしいことであると感している。

さて、「関西青山同窓会」さらに充実させるために、今回、新たに副会長として西脇重孝氏（63回卒）と渡辺操氏（66回卒）が選出された。役員層に厚みが加わることで本会のいっそうの発展を期してやまない。また受付等の事務局の手伝いを助けてくれた飯田久美子、辻友美、小宮山大介（106回卒）の現役学生諸君、御協力ありがとうございます。

最後に、本会は、関西在住の方ばかりで、一時期（学生・勤務等）関西に縁があった同窓の方々の飛び入り参加も大歓迎しています。ぜひ毎年十一月に開催される本会に奮ってご出席くださいますようお願い申し上げます。

### 五十二期卒業五十五周年（十月十五日）

#### 二分間スピーチ

吉田 赳（52回）

秋の夕暮れどき三十五名の仲間が集まってきた。飲みはじめにはまだ早い時刻である。そこには全員の二分間スピーチが予定されていた。

○卒業時の混乱  
卒業は昭和二十年三月だ。式場がどこであったか（勤務

動員先など）、証書は全員に手渡されたのか定かでない。私は、終戦を小豆島で迎えた。九月に帰還して家に辿りついた。卒業証書が佛壇にかざられていた。卒業年月日は六月三十日と訂正されていた。理由は、いまだに不明のままだ。



#### ○病気にも負けず

腰が痛い、膝がやめると言う者が多い。それぞれが治療に出かける、そこがたまたま同級のM君の整形外科医院である。いつしか待合室はサロン化しているらしい。脳梗塞や、脊髄の難病で歩行が困難なのに、友達に逢い度い一念でかけつけて、元気に語ったT君、K君、ありがとう。

#### ○元氣いっぱい

プールに日参し、記録に挑戦しているN君。晴天の日は勿論少々の雨風にも負けずゴルフ場へ通うグループ。古稀など何のそのと現役バリバリで若者をリードしている仲間の声は、一段と張りがあった。



#### ○心豊かに

あれこれ心配しても仕方がない。苦しかった戦中戦後を生き抜いた俺たちだ。この年まで生きた喜びをかみしめて「もうけの人生」を楽しく生きよう、と悟り切った心境を坦々と語る粋な男達、一時間半に及ぶスピーチは無事に終了。宴会がはじまった。

#### 「玲瓏の天仰ぐ時」

この校歌の作曲者が、大先輩（12回）の大和田愛羅先生であることは衆知の事実、この度伴奏の編曲を後藤丹君（79回）がやってくれた。因に、後藤君は私の教え子（小学校で）である。「青山」での奇しき縁を思う。

このような集いには、仕掛人が大切だ。我々52期は、いつも筑波君がこの大役をやってくれた。本当にありがとう。次の案内状を楽しみに待っている。

## 平成十二年度48期会例会開催

48期会代表幹事 五十嵐 皓太

表記の例会は平成十二年十月十一日午後六時三十分から、新潟第一ホテルに於て開催された。当日の出席者は二十五名。特に今回は遠い札幌から東城次郎君が久しぶりに顔を見せたほか、小池清泰君が悪い体調にも拘らず、横浜から駆けつけるなど大いに会を盛り上げて貰った。司会幹事林俊太郎君。先ず幹事南緑八郎君の開会挨拶に始まり、続いて五十嵐君からこの一年間の経過報告を行った。(1)母校の一一〇周年記念事業に対する募金について、48期の目標額三十五万円に対し、四三万五〇〇〇円の入金があり、会員諸兄の温かい協力に感謝の意を表わす。(2)母校の屋内体育館竣工に際し、その情景を会員に見て貰うべく、その外観、内部の施設等、併せて新校舎の全景及び内部、更に平成三年に48期生卒業五〇周年を記念して、母校に寄贈した「ハナミズキ」の樹をカメラに撮り、その写真を当日回覧した。(3)計報 本年二月相ついで長谷川信



也君並びに三浦順之介君の死去という悲しい報告（例会終了後の十一月十六日、近藤源資君死去。そして全員で物故者に対し黙禱を捧げた。次に幹事大谷一男君から会計報告を行い、その後全員で記念写真を撮り懇親会に移った。札幌から来た東城君の音頭で乾杯。久しぶりの再会に夫々楽しく談笑。頃合いを

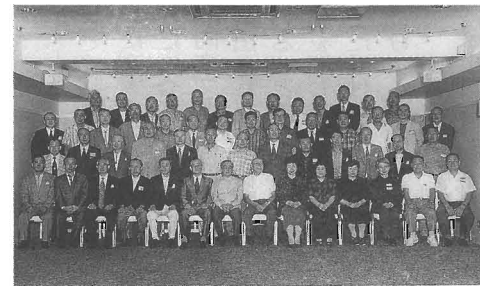


見て全員一人一分の近況報告を発表して笑い声が続く。次第に酔いも廻って座も乱れ始めたところで、林君の音頭で懐かしい応援歌の合唱。最後は校歌(レコーテン)を声高らかに歌ったあと、東京からの本間五夫君の音頭で「万才三唱」。終りは大谷君の閉会の挨拶で幕を閉じ、

### 青山六三会卒業 四十五周年記念大会の記

赤羽良樹(63回)

お世話になってます。山本(弘司)君の予定案内から始まり、私(赤羽)が経過報告、相墨君が東京青山六三会の活動状況報告、村山(弘義)君が青陵法律事務所を開いた事、東京青山同窓会の新人歓迎会で講演した事等話してくれました。



来年の例会に再会を約して散会した。尚来年の例会の持ち方について、今回懇談の中で協議したところ「これまでの夜の例会より、昼の例会の方が出席しやすい」という希望が多く、来年は試験的に昼の例会を実施することに決定した。

ご出席の横山、小黒、松浪三先生のお話、乾杯の発声があつて宴が始まりました。今回は円卓の椅子席ですの移動も楽で、各自あちこち移って、差しつつ、差されつ話がはずんでいました。盛り上ってきたところで、横田、湯浅両君の指導で、旧新校歌、応援歌を歌いました。小黒先生が昔のバラ歌(?)をきかせて下さいました。私が調子に乗って、応援歌を歌うと必ず反射的に想い出すので、高校の音楽の時間に習ったと信じている歌を二曲も唱いました。「野辺に咲く薔薇の、美しやその色、誇りもて香りつつ、折りとらば、刺すことや、折りとらば……」「高嶺を越えて、陽はい出にけり、我が成す技をば助けん為に陽はい出にけり……」一曲名も歌詞作曲者も覚えていませんが、歌い出すとスラスラと出てくるのです。貴兄も確か一年の時、一緒

に音楽を習ったはずだから覚えていませんか? 続いて佐藤(浩)君が「高校三年生」を歌い、皆も和して最高潮となりました。

やがてお開きとなり、九名の宿泊組と居残り希望者を残し送りバスで駅南、古町へ送って貰いました。それぞれ気の合ったグループで二次会をやったようです。

かつては新年会という形で毎年集まっていた時期もありましたが、最近では夏の総会で顔を合わせるのだからと、節目毎の集まりとなっております。で次は、五十周年という事になりますが、来年は母校の創立百十周年ですので種々記念行事もあるでしょうから、会う機会もあるかと思えます。遠い所から大変でしょうが、お出かけ下さい。待ってます。無茶、無理をせず健康に過して、元気で会いましょう。

### 六三会ゴルフ大会

小林俊雄(63回)

六三会では、はじめての企画となったゴルフ大会が、友情と晴天に恵れ、県外勢四名を迎え、前日のアルコールが抜け切れない一〇名が参加、新津カントリークラブに於いてダブルペリア方式で開催されました。優勝は中村輝一君(仙台在住)、ベスグロは渡辺郁夫君(東京在住)が受賞、県外勢に花を持たせた結果となりました。参加者全員には高橋昌生君(亀田製菓)より盛りたくさんの米菓、賞品と県外勢の御奥さんへのおみやげは、小林(明道金属)からステンレス製品を各々協賛し、内容のあるコンペとなりました。プレー後のパーティでは、七月の総会で受賞した「越乃寒梅」が幹事長赤羽良樹君より差し入れがあり、瓶が空になる迄、前夜に引き続き高校生時代にタイムスリップ。楽しく旧交を温め、再会を約束し、散会いたしました。

### 66回同級会報告

母校にオリーブの巨木を訪ねた 富所拓男(66回)

平成十二年四月十五日から一泊二日の日程で、岩室温泉ほてる大橋にて、前年に続いて、還暦を祝う会 Party 2 を開催した。66回生は昭和三十三年三月の卒業で、松浪清先生(先生は新潟市内在住で、傘寿を迎えられ、益々御壮健でおられます。)が担任であったA組の同級生です。



当日新潟駅に午後一時に集合し、ただちに母校を訪問した。私達が入学したのは、昭和三十年四月、前年に校舎を焼失したため、入学からしばらくの間二部授業が続きました。三年生の春、修学旅行は関西四国方面に行きました。映画「二十四の瞳」に沸く小豆島を訪ね、バスガイドの説明と歌に酔いしれ、青春を満喫しました。

島を離れるとき、小豆島観光協会から記念としてオリーブの



前列右より 渡辺、坂井、三浦、中村  
後列右より 野口、斉藤、小林、山川、山本、湯浅

苗木をいただきました。苗木は復興した校舎の正面玄関に植えられました。

それから四十三年余、同級会参加者で新校舎を拜見、懐かしいオリブの木に再会するため、母校を訪問したのです。新潟の風雪に耐え、巨木に生長したオリブの木を眺め、感無量でした。

その夜岩室温泉での盛り上りは前年の同級会以上となりました。

66回生の諸兄、諸姉たちよ、

## 卒業四〇周年記念イベント

### 若松昌弘(68回)



九月二十三日午後一時新潟高  
校集合、午後一時三〇分青山海  
浜公園ぐみ原散策、午後二時三  
〇分母校新校舎見学、午後三時  
記念健康シンポジウム、午後  
六時記念パーティ、午後八時三  
〇分二次会、二十四日Aコース  
午前十一時信濃川遊覧、Bコー  
ス午前八時十九分記念ゴルフ大  
会。これは、昭和三十五年(一  
九六〇年)卒業の「青山六八会  
卒業四〇年」記念イベントの日  
程案内です。

一年前に有志が集まり三〇周  
年記念以来十年区切りで卒業四  
〇年を記念してなにかイベント

友情のオリブの巨木に逢いに、  
母校を訪ねてみませんか。

なつた視聴覚教室で行う。  
また、翌日は親睦をかねて、  
男性はゴルフ、女性が参加しや  
すいように水上船「アナスタシ  
ア号」を借り切り信濃川から新  
潟見物。これらを基本に、計画  
を実施に移すことにした。

特に、今野君(脳外科開業G  
組)を中心に筒井君(内科開業  
F組)・宮尾君(耳鼻科開業F  
組)・土田君(脳外科A組)・本  
田君(精神科開業G組)・池主  
君(歯科医開業A組)らによる  
還暦を迎えて「若々しくいきる」  
をテーマに健康シンポジウム  
は身近なことだけに同期生も真  
剣に耳を傾けていた。

イタリヤ軒での記念パーティ  
には九十六人が出席。四〇年振  
りに会う顔もあり、しばしば、  
お互いに思い出せない様子だっ  
たが、次第に打ち解け話がだい  
にはずんだ。

来賓として出席された松浪清  
先生(英語)は八十歳を越えた  
とは思えないほど若々しく羨ま  
しく思った参加者も大勢いた。  
近藤(義)君(B組)のリー  
ドで応援歌を歌いパーティは終  
了した。

二次会も大いに盛り上がり最  
後はカラオケで「高校三年生」  
を合唱してお開きとなった。

翌日はゴルフ(九組三十六人  
参加)・アナスタシア号に乗船

を実施しようとした冒頭の  
ように計画・実施した。

その間二〇回程集まり折角の  
機会なので少しでも有意義なイ  
ベントにしようとした。

基本的には①社会に何か役立  
つこと②同期生にとって有意義  
なこと……をテーマにし特に女  
性にも積極的に参加しやすいよ  
うに議論を重ねた。

①については、一〇年前青山  
海浜公園に植樹したグミと同様、  
ハマヒカサキの植樹。②につい  
ては、還暦を迎えて健康につい  
ての医学シンポジウムを同期  
生の医師の諸君から母校の新装



昨年の秋の褒章で久保田幸郎君

し信濃川から新潟市の市街見学  
(三十六人参加うち女性二十六  
人)を実施し無事終了した。

会長北村(泰)(F組)、副会  
長田中(光)(E組)・渡辺(洋  
(B組)それに東京青山六八会  
代表鈴木(裕)(G組)。特にま  
とめ役をしてくれた田中(宣)  
(D組)君の精力的な活動には  
同期生一同感謝している。その  
他大勢の幹事が一生懸命になっ  
て協力してくれたことで「青山  
六八会卒業四〇周年記念」を盛大  
に開くことができたものです。

なお、青山六八会では同窓会  
にさがけてホームページを開  
設しましたので、ぜひご覧下さ  
い。

ホームページ  
http://www.kitanurass.co.  
jp/aoyama68

◇ ◇ ◇

「むかしむかし、あるところに  
ジイさんとネエさんが住んでい  
ました。ジイさんの名前はミヤ  
ジイさん、ネエさんはセキネエ  
さんといいました。ある日、セ  
キネエさんが川へ洗濯に行くと  
……」

晩秋の一夜、かつての級友が  
一堂に会した私たち70期の同期  
会は、こんな愉快なスピーチで  
始まりました。マイクの前に立つ  
ているのは関根彰圓先生で、そ  
の隣りに宮地正樹先生。一九六  
〇年をはさんだ三年間、私たち  
を鍛えてくれた、いわば人生の  
師です。

ミヤジイさんこと宮地先生は  
八〇年代後半に新潟高校の校長  
を勤められ、またセキネエさん  
こと関根先生はつい先頃まで母  
校で教鞭を取り続けられるなど、  
おふたりは青山の歴史を語ると  
きに欠かせない大御所的な存在  
ですが、四十年前はまだ二十代  
で独身。テレビの学園ドラマ  
にでも登場するような、さわや  
かな青年教師でした。

数学のミヤジイさんは、とも  
が、長年にわたり、民間航空機  
のパイロットとして活動してき  
ました。

## 「ミヤジイさん」と「セキネエさん」

### 山本憲久(70回)

かく声が大きかった。とくに怒っ  
たときはすさまじく、三つ離れ  
た教室の生徒が雷だと思つて机  
の下にもぐりこんだ。という逸  
話が残っているほどです。漱石  
の『坊ちゃん』の主人公を彷彿  
とさせる熱血漢でもありました。

一方、セキネエさんの世界史  
の授業は洒落という形容がピツ  
タリで、クレオパトラやナポレ  
オンが新潟弁を駆使する名調子  
に、私たちは聞き惚れたもので  
す。親子二代にわたつてクレオ  
パトラの新潟弁を聞いた級友は  
少なくありません。それと、私  
たちが二年生の春に休眠状態だっ  
たラグビー部を再興させたのも、  
着任間もないセキネエさんでし  
た。後に花園での全国大会に出  
場する青山ラグビー部の隆盛は  
ここからスタートしたのです。

熱血のミヤジイさんと洒落な  
セキネエさんの人柄に、私たち  
は魅了されました。卒業してか  
ら三十八年。その間の同期会  
には必ず出席していただしてい  
ます。新潟はもちろん東京在住  
者の集まりにも、おふたりそろつ

て元気なお顔を見せてくれます。両先生こそ70期の主役、と言っているほどです。

そして、今や同期会に欠かせないセキネエさんのスピーチ。冒頭に紹介した話も、川の上流

### 約束の女子五人の同級会

#### 瀬賀孝子(77回)

一年七組、私達は女子五人だった。二〇〇〇年十月十日の十時に校門前で会おうと約束していたのが実現した。残念ながら、集まったのは四人。一人は十年前に亡くなっていた。

同期生で、現在母校で体育科の教師をしている瀬野正英君に、新しい校舎を案内してもらった。学校が移転してなくて本当に良かった。残存していたのは、体育館とその隣りにあるポプラの木。それも十二月には取り壊しの工事が始まるという。

想い出が何だ！という人もいる。確かに大切なのは現在と将来であり、過去は忘れ去るべきかもしれない。しかし、想い出は、自己の存在の実感と自己肯定感を与えてくれる。過去は捨てていいだろうが、想い出は大切だ。

古い体育館は、私達にいろいろ楽しいことを思い出させてく

から桃ならぬサツマイモが流れて来るなど波瀾万丈の展開があり、最後は素晴らしい落ちで終わるのですが、その詳細は次の機会に紹介することにしませう。

二〇〇〇年に会おうと誰が言い出したのか？ 誰も思い出せない。

当時一年七組、私達五人はすぐに意気投合し、お互いにあだ名をつけ合い、三五年経った今でも、あだ名で呼びあっている。敬意を表して年令順で言えば（といっても、数日数ヶ月の差ではないが）

デコ―仲川公美子。数学が得意だった彼女は、おデコが可愛かった。（私はよく数学を教えてもらった）

メガ―私こと瀬賀孝子。メガトン級のハリキリ・ガールという印象からつけられた。（本人は知らなかった）

お宮―斉藤富美子。金色夜叉に出てくるお宮のような耐え忍ぶ和風女性のイメージなのだ（本当はどうなのか？ 今だにわからない）

おこや―杉崎真実子は、中学時代から「おこや」と呼ばれているので、そう呼んでねと自ら言った。芸術家タイプだ（イギリスで日本人の夫を見つけてきた）



そして、他界してしまったボン―鷺沢えり子。お盆に生まれたということと、盆のように丸顔の超美人だったので、そう呼んだ。佳人薄命というのは本当だった。

午後から、ボンの仏前にお参りした。お母様はご健在で、私達四人が替わる替わる仏前で手を合わせている間、泣き崩れられた。駅まで車で送って下さって、別れ際にお母様はこうおっしゃった。

「今度から、同級会は私の家です。やって下さいね。次は、手づくりですが昼食を作って待っていますから」

私達の姿が見えなくなるまで泣いていられた。

年月の食事が始まった。クラスは別だったが、何となく私達の

仲間になった波田野節子も加わり、五〇才の女が五人なので世間のイメージどおり大宴会になってしまった。久しぶりに童心にかえったと云うか……オバタリアンをやってしまったと云うか……。まあそれはもう人には見せられない元気な元気な女の集りだった。

一日中想い出話ばかりしていた。「ねえあれは〇〇だったわけ？」「えっ覚えてなあ〜い！」

の連続で、思い出せないことも多かったけれど、当時気づかなかった新しい発見もお互いの中

### 卒業二〇周年

#### 記念祝賀会開催報告

#### 青木孝一(78回)

我々78回生もついに卒業三〇年目を迎え、これを記念して七月二九日に新潟グラウンドホテルにて卒業三〇周年記念祝賀会を開催しました。以下はその開催報告です。

記念ということで全国から集まってくれました。

昭和四五年卒業の78回生は全員で四五名一〇組。この会は別名「極楽会」といいます（名付け親は山岸先生、卒業二五周年を記念して命名されました）。毎年同窓会当日、総会後に同期会を開催していましたので、新潟周辺のメンバーは顔を合わせ



当日は先生方六名にご出席を頂き、生徒側は七二名の参加。全国はもとより、ニュージランドより和田美津子(旧姓 碓)さんが、台湾より細井正明君が参加してくれました。三〇年ぶりの再会となる人もいる訳で、校章入りの名札を用意し、さらに現在の本人と在校当時の面影とを比べて懐かしんでもらおうと、卒業アルバム(集合写真)をクラス毎にパネルにして展示し、メンバーの来場を待ちました。

乾杯の後には小田先生による手品のご披露もあり、その後酔いが回るにつれ大いに盛り上がったのは言うまでもありません。今回は女性の参加も多く終始華やかな雰囲気となり、全国から集まった三〇年前の高校生が昔話に花を咲かせました。各々年相応に貫禄(?)も付き各方面にて活躍中ですが、話が始めれば直ちに一八歳に戻って青春を謳歌、あつという間に時間が過ぎ、最後に応援団脇川弥寿彦君の首頭で丈夫を斉唱してお開きとなりました。二次会にもほぼ全員が参加してさらに話し込み、その後は小グループに分かれて夜の新潟へ繰り出した次第です。さて、次は三五周年でしょうか? そのときはどんな顔になっていたのか楽しみにしたいと思います。

### 83 回卒業25周年同期会

岡田 潔(83回)

卒後二十五年という区切りにあたり五年(正確には四年)ぶりに同期の宴を催したいと学年幹事の吉水敦君から連絡があったのが、二〇〇〇年の年初でした。早いもので、高校を卒業して二十五年目の夏を迎えます。

二十世紀の最後に皆で集まろうという計画です。前回は三十年代最後とのことで、旧新潟高校の校舎で記念授業を行いました。今回はのんびりやろうとのこと。今回の企画はありませんでした。私も八組の幹事をやれ

といわれたものの、前回の同期会でも盛り下がっていたという噂のやもめクラスです。各クラス最低十人は集まる予定で計画しているとのことなので一抹の不安を感じました。案の定、最初に連絡したときは出席予定者が四十六人中、私を入れてもわずか七人という悲惨な状況でした。私自身も二十三年ぶりに新潟に戻ったばかりで、今まで不義理ばかりだったので偉そうなお話は言えませんが、何とか当日には十六人の旧やもめたちが集まってくれました。

二〇〇〇年八月十二日(土)午後五時より、場所はホテルイタリヤ軒三Fのサンマルコにて83回の卒業二十五周年同期会が見事開催されました。幹事長は吉水君、副幹事長は近藤敏明君という名コンビで、事前に3回も幹事会を開くという入念な準備の甲斐もあり何と! 百五十五名の同期生が集まりました。約半数は県外在住者で、海外からも DOUGAN(浜田) 知子さんが参加するなど、83回の団結の強さを実感しました。先生方も松波清先生、打越賢郎先生、高木睦弘先生、曾我浩先生、上杉雅之先生、長尾光男先生、永井成一先生の七名もの先生方のご出席ということで大いに盛り上がりました。ただし松波先生

がいつになってもお見えにならないため幹事が会の終了間際にご自宅にお電話したところ、夕食後の団欒中だとのこと。うっかり忘れていたとのことでしたが、ご本人のお話ではまだボケるには十年早いとのことでした。そのお言葉どおり、後日開かれた幹事会にお見えになり、その能弁振りとも未だに衰えない記憶力に一同ただただ驚くばかりでした。

会のほうは初めに吉水君と近藤君の挨拶、担任の先生方のご祝辞をはさみ、最後は栗林仁君の校歌、丈夫斉唱でお開きとなりました。次回は予定どおり5年後と決定しました。会は終始盛況で、あまりの人数に向こうが見渡せないほどでしたが、至る所に人の輪ができ、昔話から子育ての話、変わり果てた体型

のことやちよつと寂しい頭髪のことなど、大騒音の中での歓談が続きました。後日聞いた話では、ほぼ全員が二次会、三次会へと流れたようです。幹事の失敗談といえば、二組の吉田桂君と富山武美君が連絡の往復ハガキの往信のところに返信の出欠確認を印刷してしまったり、十組の山本朋彦君が受付の開始時間を一時間間違えて連絡してしまふなど、色々ありましたが無事終えることができました。

### 「青陵健児」の旗の下で

#### 「駒場祭奮闘記」

東大青山同窓会代表 小橋川 嘉樹(107回)

最後まで名簿の整理がつかず、ぎりぎりまで名簿作成で迷惑をかけた清水印刷所の清水孝祐君、この記事の写真の心配が間に合わず助けていただいた奥田(田辺)悦子さん、ほか各組の幹事の皆さんどうもありがとうございました。追伸 83回同期生の連絡網を充実させるために、また次回同期会の準備のためにもメールアドレスをお持ちの方は吉水君宛(qsk13@nifty.ne.jp)にメールを送っておいてください。

私たちは今年、十一月二十四日・二十六日に東京大学教養学部で行われた東京大学教養学部の学園祭「駒場祭」に模擬店を出店しました。今回は私たちの紹介と、駒場祭のご報告をしたいと思えます。私たちは今回駒場祭に参加するにあたり、「東大青山同窓会」という団体名で実行委員会に申し込みました。東大青山同窓会と言っても実際は、高校時代から仲の良かった何人かが集まるときに、「『東大青山同窓会』と称したら面白そう」ということで決まった名称です。青山と

言う名前を使うからには、その名に恥じないような活動をという気持ちになりました。さて、このような経緯で結成(?!?)された東大青山同窓会ですが、そのメンバーの共通の特徴は「お祭り大好き」という点です。そんな私たちのことですから、「二十世紀最後の駒場祭」という言葉を聞いたときには居ても立ってもいらなくなってしまうました。もともと、昨年の駒場祭の時に「これほど盛り上がる学園祭なのだから、自分たちの店も出してみたいね」といった話をしていただけもあり、





左から、小橋川嘉樹(107回)2年、山本貴美子(107回)2年、北見 光(106回)2年、山本亜希子(106回)3年



左から、小橋川嘉樹(107回)、五十嵐悠介(107回)早稲田大より応援・2年、北見 光(106回)、山本貴美子(107回)

今回の駒場祭への出店はすぐに決まりました。同時に、模擬店の内容も独創性を出したいと言うことで、郷土料理の「のっぺい」を出すことに決まりました。夏休み前から手続きなどは始まっていましたが、実際に活動を開始したのは十一月に入ってからでした。それでも、作り方はそれほど難しいわけではないこともあって、あまり不安を感じることはありませんでした。しかし本番が近づいてくるにつれ、問題が生じてきました。私たちの中に、体調を崩したり日程の都合がつかなくなったりして参加できないメンバーが出てきたのです。こうして私たちは不安を抱えながら駒場祭を迎えることになったのです。

前日から材料を切るなどの下ごしらえを始めたわけですが、ここに思わぬ敵が待っていました。それは、のっぺいに欠かすことのできない「里芋」です。二〇kg近い泥のついた里芋を洗って皮をむくという作業がこれほど大変だとはい正直予想できませんでした。冷たい水で泥を落とし、かゆさと闘いながら皮をむいた私たちの手は、一日にしてひどい肌荒れに悩まされることになったのです。

さて、初日に準備をするにあたっては、人手不足の影響をまともに受けてしまいました。テントを始めとする多くの資材を運搬しなければならなかったのです。このときは五十嵐悠介君が早朝から手伝いに来てくれたので何とか乗り切れましたが、開場前からメンバーは体力を消耗してしまいました。準備が終わると、すぐに調理に移ったわけですが、ここでも予定外のことがありました。レンタルした鍋が予想以上に大きく、お湯が沸くのにかなりの時間がかかってしまいました。そのために完成が開場の二時間後になってしまいました。大きく出遅れてしまいました。

そして最大の誤算は、あまりに楽観的な販売予測でした。初日は平日で人も少なく売れ行きが悪かったため、いくらか売れ残りが生じてしまいました。このため、二日目以降は予測を下方向修正して売りさけるようにする必要が生じました。そのかいあって残り二日間「完売御礼」の表示を出すことができました。

しかし苦勞が多かった分、喜びもひととき大きなものとなりました。ほとんど素人の私たちが作った料理は郷土料理の「おふくろの味」には程遠いものであったと思われるのに、買って食べてくださった方のほとんどが「おいしい」と言って、この言葉は何よりも嬉しいものです。それまでの苦勞はこの言葉聞くことに癒されていく、そんな感覚を味わうこと

ができました。収益は上がりませんでした。それ以上のものを得ることができたと思います。最後に、今回の出店にあたっては多くの方の協力が欠かせませんでした。協力してくれた方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。また、同窓会の多くの先輩方に援助・応援していただきましたことも感謝しております。本当にありがとうございました。

**青山柔道部**

**OB・OG会報告**

村田紀夫(70回)

(早福記)

当日の駒場祭青陵健児主催の「やすらぎ堤」会場には、東大OBでもある栗林東京青山同窓会長も激励に駆けつけて戴いたそうです。御苦勞さまでした。来年も続開して下さい。

夏が暑さが冷めやらぬ九月九日、十日と新潟県南魚沼郡塩沢町に位置する巻機山で、例年どおり新潟高校山岳部三年生の追出し山行が行われた。今年はい出し山行が行われた。今年、山岳部OB一七人が参加し、また、忙しい仕事の合間を縫って、元顧問の岡村先生にも駆けつけていただき、例年にもまして賑やかな山行となった。

迎えして、三〇名集まり、開催されました。結城俊郎会長(62回)の挨拶、同窓会長の挨拶の後、猪俣監督より、母校柔道部の近況が報告されました。我々の時代より、人数は少ないが、頑張って活躍されているとのこと、一同、安心致しました。

私も同期の連中と二次会へ行きましたが、朝帰り、翌日は、本當につらい一日でした。

**追い出し山行に  
参加して**

**古寺浩実**  
99年度卒

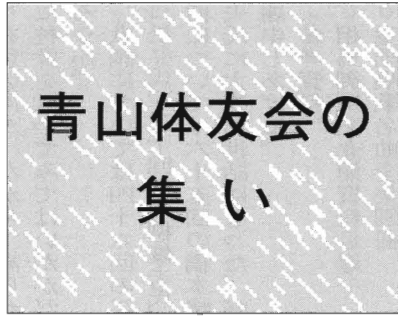


自身何よりも嬉しかったのは、高校時代に多くの事を語り合った友人達・顧問の先生方と再び思い出深い巻機山小屋で集まれたということである。心なしか、一瞬高校時代にタイムスリップ(?! ) というような懐かしい気分

三年生の皆さんは、今回が新潟県山岳部員としての最後の山行であったわけだが、三年間いかにあっただろうか。悩み、苦しみ、感動、友との共感や衝突、時には自分に行き詰まり、そして今も尚、解決できない多くの難題を問い続けているかも知れない。山岳部を通じて出会った様々な出来事があるだろう。そこから君らは、何を感じ、何を

生を見て、私はそう感じた。最後に、追い出し山行の準備などをしていた顧問の方々、一、二年生の皆さんへは、この場をかりて、もう一度お礼を申し上げたいと思います。三年生おつかれさま、そして、一・二年生ガンバレ!!

## 青山体友会の集い



数々の感動を与えてくれたオリンピックの興奮が冷めやらぬうちに、秋は静かに進んでいく十月の末の土曜日、第一四回青



山体会友会は開かれた。○十年前吾々が学び練習し歴史の一頁をつくりあげた体操部は年一回の体友会で、よみがえる。お懐しい先輩後輩今日も、しっかりと結びつく。同志・友・朋友、朋輩共に語り合い、昔の事が昨日の如くよみがえる。まっ青な空に手の平だけで倒立して廻る車輪、ゆれ動く二本のロープで体を倒立させるリング、二本のバアで体を起し倒立し回転する平行棒、足を回転させる鞍馬、体をもちあげて跳ぶ跳馬、回転倒立のゆか運動、あ、体操はずばらしい、美しい。練習に泣き試

合に笑えの相言葉に、体操部の伝統はひきつがれていく。新しい事はおぼえられないが昔の事は鮮明に再生される大脳の神秘不思議さ。そのため○○会とい

### 第10回青山OB会ゴルフコンペ

#### 勝 又 宣 夫 (75回)

十月二十四日、恒例のコンペが紫雲ゴルフ倶楽部・飯豊コースで行なわれました。前日の雨とはうって変わって上天気。半袖でも汗ばむ程。火曜日とあって、参加は残念ながら二三名ながら、思い思いにゴルフを楽しみました。優勝は63回の三浦喜代次さん

このコンペは同窓生なら誰でも出れます。上手い下手は関係ありません。二桁のスコアは1/3もいません。念のため。是非たくさん参加してください。春 五八六

#### 「玲瓏の天」「百里流れて…」

#### 江口直禎(56回)

旧校歌の歌詞について、度々諸先輩から疑義が寄せられた。私なりに調べた結果を述べる。結論から言うと昭和十五年文部省に校歌採用の認定を受けた際、四番の「裏日本の覇者として、五番の「白砂塵なき丘の上」の原作から認定後「裏日本に名を挙げて」「真白き砂の丘の上」に変わったまま現在に至っていると思われる。

ただし、四番終りの「光輝に充てる歴史こそ青陵健児の誇なれ」は昭和十五年四月文部省の校歌認定前に変更されていたふしがある。誠に不可思議だが、恐らく文部省認定申請書提出前につまり、昭和十四年十一月段階で「光輝に充てる歴史こそ青陵健児の誇なれ」に変えられていたことになる。旧校歌の歌詞「光輝をかへぬ歴史もて」では何か用法にでも不都合があったのだろうか? 今となっては憶測するしかない。

校歌の作曲者、大和田愛羅は、明治十九年(一八八六年)三月二十四日、東京市牛込区(現東京都新宿区)下宮北町に大和田虎太郎の長男として出生。祖父清晴は村上藩士で村上本町一六五七番地(現村上市庄内町)に住んでいたが明治維新後村上を

去り新潟に移住する。熱心なキリスト教徒で、東中通教会の牧師であり、医師として教会病院に勤務していた。父は軍医であったが、二十八歳の若さで夭折した。

愛羅は新潟師範学校附属小学校から新潟県立新潟中学校(現新潟高校)に入学。明治三十八年(一九〇五年)三月卒業(第十二回卒樋口正勝・長谷川寛両

弁護士、斎藤喜十郎、鍵富三作等と同期)東京音楽学校(現東京芸大)本科音楽科に入学、更に研究科に進み、同四十四年三月卒業。東京府立女子師範学校兼府立第二高女の教諭となる。

昭和十八年(一九四三年)四月東京第一師範学校教授に任ぜられ、その傍ら同志と四部合奏団を作り、音楽の普及に尽瘁する。第二次大戦後は東京芸大に奉職し、他方関東合唱連盟顧問や全国合唱コンクールの審査員を勤める。昭和二十六年退官。上野

学園芸術大学の教授となり明大、慈恵医大、国立音大その他の大学の音楽指導に当たる。昭和三十七年(一九六二年)八月十一日没。享年七七歳

愛羅の作曲集には、新潟商業、新潟中学校(共に相馬御風作詞)新潟高校(作詞堀口大学)の校歌や、「白帆」「夕やけ」(作詞西条八十)文部省唱歌として

有名な「汽車」などが入っている。村上駅前には東京村上郷友会が結成百年を記念し「汽車」の石碑を建てている。

創立六十周年記念に新潟高校の校歌が制定された。当初会津八一に作詞を依頼したが高齢を理由に固辞、かわりに堀口大学に紹介状を書いて下さる。それで「百里流れて……」の歌詞が誕生した。

新旧両校歌共作曲者は大和田愛羅である。新校歌は愛羅が芸大を退官した翌昭和二十七年六十周年を記念して作られた。時に、作詞、作曲者の人となりを思い浮かべながら、高らかに校歌を歌ってみてはいかがだろうか。

歌詞については四十六回の江口松弘氏、五十回の一柳俊夫氏、曲については六十五回の橋本晴夫氏に大変お世話になった。感謝申しあげる。

《参考資料》  
○相馬御風記念館資料目録一  
○童謡唱歌名曲全集別冊  
○村上市史 他

新潟中學校校歌  
(一)  
玲瓏の天あふぐ時  
胸颯爽の意気に充ち  
廓寥の地をのぞむ時  
雄図にあつき血ぞ躍る

讃へざらめや青春の  
光不滅のわが生命  
(二)  
見さくる越の野はひろく  
吹く風清き青山や  
千古に盡きぬ長江の  
ゆたけき流のぞみつ

北斗燦たる空の下  
青陵健児われ立てり  
(三)  
怒濤さかまく日本海  
天そそり立つ彌彦山  
いかでかそこに隠れたる  
自然の黙示のなからめや

青陵健児の生命なる  
(四)  
時流はいかに濁るとも  
わが校風ぞ彌清く  
文にはた武に幾十年  
裏日本の覇者として  
光輝をかへぬ歴史もて  
青陵健児ここにあり

(五)  
いざわが友よもるともに  
白砂塵なき丘の上  
常磐の松の下かげに  
誓盟を永久にかためつつ  
青陵健児のかんばしき  
榮譽をあげむ彌高く  
(昭和十五年三月第四七回卒業  
記念写真帖より)

新潟中學校校歌  
(昭和十五年六月文部省改訂ノ

上認定)  
(一)  
玲瓏の天あふぐ時  
胸颯爽の意気に充ち  
廓寥の地をのぞむ時  
雄図にあつき血ぞ躍る

讃へざらめや青春の  
光不滅のわが生命  
(二)  
見さくる越の野はひろく  
吹く風清き青山や  
千古に盡きぬ長江の  
ゆたけき流のぞみつ

北斗燦たる空の下  
青陵健児われ立てり  
(三)  
怒濤さかまく日本海  
天そそり立つ彌彦山  
いかでかそこに隠れたる

自然の黙示のなからめや  
(四)  
時流はいかに濁るとも  
わが校風は彌清く  
文にはた武に幾十年  
裏日本に名を挙げて  
光輝に充てる歴史こそ  
青陵健児の誇なれ

(五)  
いざわが友よもるともに  
眞白き砂の丘の上  
常磐の松の下かげの  
誓盟を永久にかためつつ  
青陵健児のかんばしき  
榮譽をあげむ彌高く  
(創立五十周年記念誌より)

### チョモランマ(エベレスト)ベース キャンプとヒマラヤ越えの旅

#### 小林光衛(63回)

一九五三年五月二九日。ジョン・ハント率いる英国隊が、世界最高峰チョモランマ八八四八米の初登頂に成功。一九二一年の初登頂以来九回目の挑戦で、山頂にユニオン・ジャックを翻したのである。登頂成功は、六月一日にパッキンガム宮殿で発表。翌日に行われるエリザベス二世女王戴冠式に寄せる最高の祝福メッセージになり、一気に

世界中を駆け巡った。  
一九五六年五月九日、榎有恒氏は隊長とする第三次マナスル(八一五六米・世界第八位)登山隊初登頂に成功。戦後における水泳界の古橋・橋爪の活躍、ノーベル賞の湯川博士に続く壮挙として、日本中に強い感動を与えた。山登りを知っている者は勿論、全く関心を持たなかった人にも山登りを理解させる結

果となり、空前の登山ブームを惹き起こしたのである。  
チョモランマ初登頂の年、私は高校二年、新潟高山山岳部がクラブとして正式に発足した年でもある。マナスル初登頂の折は大学二年で鶴翔山岳会の二年会員。山行費用稼ぎのアルバイトと、山行に明け暮れる日々であった。

一九五四年十二月、エベレスト征頂記録写真集「エベレストへの闘い」が、ついでジョン・ハント著「エベレスト登頂」が朝日新聞社より刊行され貪り読む。また、五一年秋に封切られた記録映画「マナスルに立つ」を、一端の登山家気取りであった私は、乏しい懐を気にしながら日比谷映画に何回も見に行ったのであった。

そして一九七三年十月二六日山岳部O・B七十三回石黒久君が、ポスト・モンスーンのチョモランマ初登頂に成功するに到り、チョモランマへの念が増幅されていったのである。

昨春、旧知の旅行社から今度の旅への誘いがあり、表記の旅が実現したのである。

二〇〇〇年八月十七日、八時二〇分新潟空港を出発。関西空港でメンバーの顔合せ。リーダー



ポタラ宮殿

は二年前に行なわれた新潟高校通信制五〇周年で記念講演された古野淳氏。一九二三年に、あのマロリーが消息を絶つたチョモランマ北東稜を九五年五月に初登頂した人物だ。新潟からは山仲間の高校教師岩野宣哉氏。そして、ヒマラヤに魅入られた男性二、女性一、計六名のメンバー。上海を経て成都へ。

十八日、六時三〇分飛び立ちチベット自治区ラサ空港八時三〇分着。市内のチベット山岳会経営のホテル「ヒマラヤ飯店」へ。海拔三六五〇米。街はともも清潔。ホテルも行き届いた設備と食事、そして何よりも従業員達の微笑みと、心のこもったサービスに感激。高度順化と観光を兼ねて三日間滞在。

十九日十時、ポタラ宮殿へ。ハインリッヒ・ハラーの名著、そしてブラッド・ピット主演の映画「セブン・イヤーズ・イン・チベット」で親しんだ筈のポタラ宮は想像を遙かに越えた壮麗な宮殿。丁寧に保存されている大蔵仏典、質素にして敬虔な僧侶達。言葉もなくただただ圧倒されるのみ。あの文化大革命の折、毛沢東主席の命により破壊を免れたとか。ガイドのテンジン君。インドで六年の仏道修行、その後日本に三年、仏教の研究で滞在。聞き易い日本語、そして仏教は勿論、仏像・仏画への造詣の深いのに驚く。宮殿の前の広場に立つ。真つ青な天空に高く高く聳えている。

二〇日、セラ寺へ。川口慧海の修行した寺だ。仏教の原典を求め、鎖国のチベットを目指した僧だ。一八九七年七月六日、神戸を出港。インド北東部のダーズリンでチベット語を学びながらチベットに潜入するルートを探す。一八九九年ネパールのカトマンズ、ポカラ、ムスタンを経て、ヒマラヤを越えてチベットに入国、一九〇一年三月、日本人として初めてラサに入る。そして、一年余り仏典研究を修行に励んだのがセラ寺だ。岩山の麓に広がる堂塔、白壁と赤い屋根、境内のあちこちに描かれた

仏画。中では問答修行の僧侶、願掛けの巡礼者、五体投地の修行僧。たらずむと、八十才で亡くなるまで精進齋し戒律を守り通した慧海の姿が、彷彿として浮かんでくる。高度順化も旨くゆき体調はすこぶる良い。

二一日、トヨタの四輪駆動車を二台に分乗し、カンパラ峠・チベット三大聖湖の一つヤムドクツォ・ギャンツェを通過してチベット第二の都シガツェへ。印象に残ったのはギャンツェ城。一九〇三年、ヤングハズバンド率いるイギリス軍と、チベット軍との間に激しい戦闘が行なわれ、最近の火器によるイギリス軍の攻撃の前にチベット軍は敗北、今は山の頂にその遺構のみ廃墟として残り、人間の営みの空しさを語りかけてくる。

二二日、カツォーラ峠を経てシガルへ。想像を絶する悪路。トヨタの車の優秀さと、チベット人のドライバリーの腕の良さに救われる。やせた土地に咲く鮮やかな紅の蕎麦の花。羊・ヤクといった家畜も、心なしかやせている。

二三日、パンラ峠五二〇〇米、そしてロンブク僧院への一息。パンラ峠の下で青い芥子の花。九八年マナルス街道を歩き、トロンパス五四一六米の下で出合った時よりも遙かに鮮烈。ヒマラ

ヤの幻の花といわれる所以も首肯ける。吸いこまれそうな青い青色。峠に立つ。チョーユー・チョモランマ・マカールの峰々が迫ってくる。最高のパノラマ。妻いとしか言いがたい圧倒的な景観。時の経つのを忘れる。峠を下りロンブク僧院を目指す。懐かしい響きのロンブク僧院。八〇年前の遠征隊も辿った道。一九二四年六月八日、北東稜で消息を絶つたマロリーとアービンも天幕を張ったであろう僧院前の広場。初めて訪れたのに、もう度々来ているかのような気がする不思議な場所。宿はエベレスト・ビュル・ホテル。

二四日、チョモランマベースキャンプを訪れる日だ。ホテルから車で二〇分。ロンブク氷河と白い雪と氷に覆われたチョモランマ北壁が眼の中に跳びこんでくる。周囲に人影はない。静寂そのものの丘の上に立つ。慰霊碑が幾つかある。その中の一

### ハナシカタ・カキカタの勉強を

#### オバタ タダオ (63回)

一、日本にはコトバの訓練がない。森首相の「神の国」発言がマスコミにたたかれた。あとで弁明していたが明らかに「舌タラズ」である。森首相だけでなく、日本人で、いいたいことをきちんと話せる人書ける人はめずらしい。「会議ベタ」も定評がある。そのワケは日本の家庭にも

つ、一九八〇年に、北壁からの初登頂を狙った日本山岳会隊に参加、五月二日アタック隊員として第五キャンプに前進中、雪崩にのまれ遭難した鵬翔山岳会の後輩宇部明君の碑に類づく。周辺の小石を拾って幾つかポケットへ。ご家族に届ける積もりだ。山に逝きし仲間達の顔が浮かんで来る。そして、人間の営みの巨きさも改めて感じさせる北壁だ。来れて良かった、本当に良かった。古野氏に有難うと心の中でつぶやく。彼の初登頂した北東稜は雪煙をあげ、見入っている古野氏の顔はともい。ティンリ四三〇〇米まで下る。

二五日、ザンムーで出国手続きの後、ネパールのユダリ、そしてカトマンズへ。二六日、カトマンズ滞在。二七日帰国。帰国後、チベットそしてチョモランマ再訪への思いは募る一方の日々である。

このコトバの訓練は考えかたの訓練でもあるから、日本人はモノゴトを筋道だてて考えることがヘタである。このため大新聞の社説にピントハズレの文章

学校教育にもコトバの訓練がまるでないからである。木下是雄さんは学習院大学で長だったとき、学生があまりに文章をかけないので学習院のなかに「言語技術の会」をつくらせて座長をとめ、十一年かかって小学校から高校までの教科書をつくったが、そのキッカケになったアメリカの小学校のコトバ教育を紹介しながら次のようにいつている。(『物理・山・ことば』新樹社)

「この作文教育の主眼は、ものを系統的に調べあげ、その結果を客観的に記述することにある。こういうエクスポジトリ・ライティング——事実、あるいは自分の考えをきちんと文章に書くこと——の訓練が日本の教育には欠けていると思う。諸外国の言語の教育は、A読解とB言語技術の二本立てであるが、日本ではAが中心でBが欠けている。そのためインフォメーションの伝達、論理的な内容の記述については、日本人の能力はいささかたよりないし、事実の記述と意見の記述とをわけて読む力も不十分である。……」

がのり、討論が仕事のはずの政治家がナンセンスな発言を平気でくりかえしている。このことは日本の社会全体に大きな害をあたえているし、国際化時代にあつて外交でも問題をおこしている。

わが「あおやま」の卒業生には、政治家・経営者・役人など、いろんな分野で指導的な立場にたつた人がおおいから、文章をかいたりスピーチする機会がおおいはずだし、会議もしょっちゅうあるはずである。

そこでこれらについて、みなさんに参考になりそうなコトをすこしかいてみたい。なおワタシは、高校で「国語表現」を教えてきたが、ムカシ組合の役員を十一年間やつたので、その間に数えきれないほど会議をし、スピーチをし、また情宣部長として六年間、組合の新聞ヅクリをやつた。

二、訓練のシカタ

まずよい手本をアタマにいれる。かのチャールズはスピーチも文章もうまかったが、こういつている。「学校でまなんだ多くは暗記した文芸の珠玉である」。りっぱなスピーチを一つおぼえろとドダイができる。ワタシが「テガミとはこうゆうものか」、スピーチとはこうゆうものか」

と思つたのは、高校3年の英語のテキストにのつていたリンカーンの「ピクスピー夫人へのテガミ」と、有名な「ゲチスバーグ演説」である。具体的なことにはアトにあげた本などで勉強してもらいたいが、スピーチ技術の基本を少しあげておく。文章もおなじである。ナカミはそのヒトがもつている教養でままるので、これは自分で豊かにするしかない。

(1) いろいろなスピーチはしない。するときはなるべく短く。四十五年五月、ドイツが降伏してイギリスが生きのこれるか滅びるかという大戦争がおわつた。これを下院に報告したチャールズのスピーチ。

「本日ドイツ政府は降伏をもうし入れた。したがつて対ドイツ戦争はこれをもっておわつた。国王陛下万歳」(『自由と規律』池田潔)。

(2) 自分が話したいことではなく、そこに集つていいるヒトが聞きたいことをはなす。

(3) どんな短いハナシでも、かならずハナシのクミタテをかんがえておく。

(4) 聞き手全体にむかつてはなすのではなく、真ん中・左はし・右はしにマトになるヒトをおき、これにむかつて順番にはなす。大勢のときは、前・

後にもおく。

(5) 対話のときよりユックリメに、コトバをはつきりいうように気をつける。声のほそいヒトは、歌をうたうキモチで声をひびかせるようにする。謡曲の練習ができれば一番よい。マイクをつかうときは音量を聞きながらマイクとの距離を考える。

(6) ユーモアを心がける。

三、参考になる本

《ゼンパン》◎『実践・言語技術入門』言語技術の会・朝日新聞社／◎『ことばの生活のために』藤原与一・講談社／『話す・書く・読む技術』ダイヤモンド社／『新国語ハンドブック』平井昌夫・三省堂／

《キク・ハナス》『心に届く話し方』川崎洋・チクマ／『聞き上手話し上手』扇谷正造・講談社／『教師の話術』古田ひろし・共文社／『ジョークのたのしみ』松田道弘・チクマ／『リソカーン演説集』岩波文庫／

『人を動かす』名言・逸話』大成『講談社』

《カク》◎『文章・表現2000の鉄則』日経BP出版センター／『文章の実習』大隈秀夫・日本エディタースクール／『考える技術・書く技術』板坂元・講談社／『作文の基礎演習』藤原与一・中央図書／『理科系の作

文技術』木下是雄・中公新書／

◆齊藤美奈子さんについて

「あおやま」の卒業生には有名な人がイッパイいるが、「こんなヒトもいるのか」と感心したヒトを紹介したい。朝日新聞の書評をやっているが文芸評論家の

新聞づくりと雑誌づくり

梁川淑広(83回)

東京・竹橋の毎日新聞社編集局。昼過ぎに出社すると、未明に引き継ぎ簿に書いておいた浦和支局の特ダネ「東松山署が獄中組員に嫁世話」が、刷り上がったばかりの夕刊社会面アタマを飾っていた。

「支局は『硬軟展開したい』と言つてたけど、無理でした?」

「硬派は政治、経済、外電面など、軟派は社会面や運動面を指す業界用語で、硬軟展開とはつまり、一つの記事を一面と社会面にわたつて書き込むこと。地方部の夕刊番デスクと、隣の社会部の番デスクが、「予算の大蔵原案内示の日に、そんなスペースが取れるもんか」と口をそろえる。

「サンデー」が、当時猛烈なバッシングを受けていたサッチー(野村沙知代さん)の独占インタビューを掲載した折、「毎日

新聞ともあるものがワイドショーのようなまねをして」とか「売れば何でもいいのか」というおしかり電話が編集部にガンガン来ましたが、基本的に売れなきゃダメだと思つてます。(その割に売れてないぞ、とは言わないで)

新聞だけ読んで世の中が分かつた気になつている人は、皆無だと思つます。とりわけ一般紙は、しつかり確認できたことしか載せないで、伝聞ばかりか想像力まで駆使して知りたい気持ちに応えようとする雑誌やワイドショーほど、読者の爽快感もありません。

しかし、取材による情報の質量は新聞に一日の長ありで、その証拠に、地方で何か事件が起きると、出版社週刊誌から必ずと言つていいほど「発表されないうことを教えて」と電話が入ります。また、悪名のみ高くなつてしまつた「記者クラブ」ですが、クラブ担当記者は当局との付き合いが本当に濃密で情報が多く、どこの社ともあえて書きませんが、知つても新聞では書けないことを、週刊誌から頼まれたアルバイト原稿に書き、小遣い稼ぎと欲求不満解消にしています。

新聞の行間を雑誌が説き明かすような、相互補充の関係になつ

てるようですね。  
時に、毎日新聞東京本社の方部にはもう1人、新潟高校OBがいます。加藤春樹さんといって、部長です。本人に言わせると、バスケットボール部で大活躍したらしい。確認してないの

## 母校の教壇から

### 五十嵐 公(81回)

二〇〇〇年という記念すべき年の四月一〇日、二・三年生八〇〇名の後輩たちを前に二七年ぶりに足を踏み入れた体育館のステージの上に私は立った。年度始め恒例の新任職員紹介のときのことである。まったく変わってしまった新しい校舎の中で、そこだけが私を懐かしい思いに誘ってくれるように感じられた場所ではあったが、感慨にふける余裕もないまま、名前を呼ばれ一礼したのであった。「とうとう母校に来てしまった」という複雑な思いが、体を起こし、居並ぶ生徒たちを見渡した私の胸に去来した。  
大体、私などは最も母校の教員にふさわしくない手合いのはずであった。授業中にノートなど取った記憶はほとんどなく、はなはだしきは、リーダーの時間に訳をするよう指名されてか

で新聞だと書けませんが、会報なので雑誌の乗りで書いてしまいました。その部長が「良き先輩に恵まれて」と書いとけ」とそばでうるさいので、このへんで。

ら、その場で辞書を引きたしたことまでである。放課後はひたすら放送室を住みかとし、怪しげな番組を作っては自己満足の世界に浸っていた。大学合格を担任に報告に行った折、廊下ですれ違った部活顧問でもあった学

## 母校の教壇に立ちて思い在り

### 渡邊 治夫(88回)

平成十二年四月に母校に赴任しました。卒業後二十年が経ち、校舎はすっかり新しくなりました。唯一古い大体育館のみが当時の面影を残していますが、その体育館も解体作業が進み、歳月の流れを感じずにはいられません。生徒も職員も建物も、表面上はすっかり変わったけれども、新潟高等学校という組織は、脈々と流れを保ち続いているように思えます。青山には各々僅か三年間しか在籍しませんが、卒業後は自分の母校として誇らしくもあり、ほろ苦くもありません。私に残るものだと思います。私の在籍した学年は、共通一

の毎日を通して。これはやはり大変なところに来てしまったと思っても、もはや後の祭り。ここは開き直ってやっていくしかならうと覚悟を決めつつある。幸い後輩たちはみなよい子たちで、私の怪しげな授業にも付き合ってくれている。「楽しく、わかる」が私の目標である。母校の教壇で、新潟高校だからこそできる「楽しく、わかる」授業創りに精進しようと思っている。

次試験の二年目、大学入試制度が大変革した次の年に当たり、校長は藤田久喜先生と記憶しています。当時の私は、剣道部に所属し練習に明け暮れながら文武両道を目指していた典型的な青陵健児であったと思います。大学で数学を専攻し、現在に至っています。高校卒業時には、教員志望の明確な意志はありませんでしたが、大学でも体育会系の剣道部で活動しました。教育実習の時期を迎えた頃、教員という職業を意識しました。今振り返れば、青山で巡り合った先生方との出会いが、今日の私を方向づけたような気がします。特に数学を教えて頂いた、担任の石黒明徳先生と学年主任の横山貞雄先生。また剣道部の田辺隆先生、広沢岩夫先生の存在が大きかったと思います。教員の道を選んで母校で勤務できることに感謝しています。

さて立場を変えて生徒を見ると多様な才能に恵まれ、こせこせした所がなく、おおらかであるといった点は私の在学時代と変らないように思います。表面的には、六十五分授業が実施されたり、校舎内で靴を履きかえる習慣が出来たり、携帯電話で互いの連絡を取り合っただけだったり、女子生徒の数が半数を越える学年があったりなど、変わった

## ハイティーン水泳

### 新中・新高(32)

#### 平田 大六(60回)

56 大六キャプテン  
一九五〇年高校二年生の九月、第五回国民体育大会で名古屋へいった時のアルバムに、二見ヶ浦の写真がある。新潟商高の短距離野崎愈選手とのツーショットだ。だれが撮ってくれたのか記憶ないが、大黒善弥(50回)監督は半田市で開催されているヨットの部の選手として出場かっけもちしていたので一緒にではなかったと思う。野崎選手は私より一年上で、やがて、彼が社会人になった五一年に大阪でお世話になるのである。  
名古屋から母校へ帰った九月の末、水泳部の児玉光一(59回)主将は、おごそかに三年生の引退宣言をされた。居並ぶ三年生は、浜松恒雄、田辺四郎、中川博文、安食裕夫、長島一郎、渡辺義則の諸先輩だ。残るは、二年生、山本(青柳)淳夫、治田勇治、市川豊、野村保夫と私、

一年生は江口良助(61回)、峰田(倉田・故人)明、吉成昭一郎。計八名。  
「キャプテンは大六、やれ」ハハッ。

となつて、水泳部の引継の儀式は終つた。

ごっそり辞められた。残りたったの八人。これで部が存続してゆけるのだろうか。まあいいわ。来年の春になれば新入生が入部してくるだろ。副キャプテン格に青柳淳夫(60回)、マネージャーは市川豊(60回)と組閣も終了した。

57 町内のファン

関川村出身の私は、洋裁学校の石川員治さんという家に間借りをしてた。小学校時代、病弱であつた私にたいする母の辛苦の処置であつた。姉は付近の店や近所の人達と顔見知りになりはじめていた。「弟さん、また優勝したね」と八百屋さんに云われた、などと姉は私に報告してくるのである。

家主の子供さんたちやその仲間、私を見つめる眼差(まなざし)がちがってきた。「水泳の平田」は、その界限(かいわい)で存在のひとつになつてい

た。  
間借りの家に風呂はなかった。シーズン中は私は風呂に入らない。

いつも泳いでいるからだ。姉は、銭やるから風呂へいってこい、とたびたび私をうながしたけれど私はいかなかった。通常、人の皮膚の表面には脂気(あぶらけ)があつて、水ははじかれて水滴となる。しかし、私の皮膚は、水をかけてもそうはならない。洗剤でよくあらた

められたジョッキのガラス面のように、水滴にはならずには私の皮膚の上を一面にひろがっていくのだ。毎日の水とのほげしい摩擦で脂気はすっかり洗い落とされていくからである。

しかし、シーズンオフではこうゆうわけにはいかない。時々、

第二十一代校長

小野塚忠義先生を悼む

第二十七代校長 本間 忍



平成十二年十月七日夜、小野塚忠義先生逝去の報に接し、天

町内の風呂屋に通つた。

はやい時刻には風呂は空いていて、時たまイナセな一人の兄ちゃんと一緒にいることがある。背中全面の刺青で、その筋の方とわかる。

ある日。その兄ちゃんが、お風呂(ゆづね)の中から私をどなりあげてきた。「?」。私の体の日焼けは、普通の人のそれとちがつて、秋になつても残つてい

る。水着の跡だけが真っ白なのだ。  
「あんたも、シャツ脱げば」アッハッハッハ。

「おまえ、速いんだってな。」風呂場の天井に響く。  
他の大人たちの視線が私の体に集つてきた。(つづく)

の御導師様(横越町の寺院)の言によれば、二日ほど前に散歩

の序でといつて寺院に立ち寄られたときはお元気だったとのこと、九十一歳という御高齢による突然の死はまさに天寿というにふさわしいとお話をお聞き

し、いかにも小野塚先生らしい最後であつたのだと少しはなぐさめられた。  
小野塚先生は、本校第34回卒業、東京大学社会学科卒業後、本校教諭、教頭、校長とそれぞれ期間が短かつたが、三回も職名を変えられて母校の教育に尽

瘁された教育者であられた。しかし、新潟県初中等教育界は先生を一所の教育のみに専念させず、教育行政のリーダーとして期待、社会教育主事、学事課長、教育次長、教育長(県退職後は新潟市教育長)として、危機的な場面での都度、責任者に起用され、先生は立派に職責を遂行され、世の付託に応えられた。

私は、本校での関係は第二十七代校長としてのつながりしかないが、教育行政の世界で先生の恩顧を戴き、私の今日あるは先生のお蔭であつたと心底感謝している次第である。いろいろな場面が回想されるが、最も印象に残っているのは、先生が学

事課長、私が調査係長で、昭和

三十七年、文部省の全国学力調査実施の衝に当たつたときのこ

とである。これは当時の日教組の反対運動のため混乱し、大変なエネルギーを費やされた。後日テスト妨害の実力行使者に対し行政処分が行われ、それに抗して組合側が新潟地裁に提訴し、

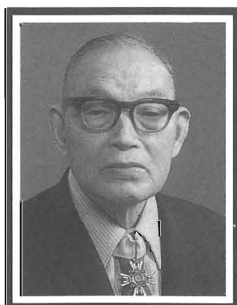
小野塚先生と私は県教委側証人として二日間法廷に立たされた。その時の先生の毅然として悠揚迫らざる姿勢は若輩の私にとつては心のとりでとなり、無事この難関を切り抜けることができ

たことを今でも鮮明に覚えてい

る。組合が突然押し掛けてきて、決して逃げ隠れせず、単身で交渉の場に臨むこともあつた。

松浦茂路大長老逝く

総会実行委員 早福 卓(55回)



二十世紀最終の平成十二年十二月十一日行年百一才で御逝去されました。28回生として入学し第四学年の時(大正九年)海軍経理学校を受験し全国からの

こういう態度は組合にも理解され、先生の在職中は彼等も特に暴走はしなかつた。そういう人徳のため、大事な場面で校長から県教育長に起用されたりしたのである。私も、在職中はいろいろな方にお仕えしたが、安心して全身全霊を投げ打つて仕事

ができた時期は、まさに小野塚先生の部下であつた時期であつたと感謝の念をこめて思い出している。決して派手なパフォーマンスはなかつたが、背筋をピンと伸ばし、新潟県教育の救世主であられた先生はまさに将の

将たる器であつた。謹んで御冥福をお祈り致します。

合格者三十五名中五番で入学したと云う。卒業して少尉候補生として兵学校と機関学校の仲間と遠洋航海で東南アジアから豪州ニュージランド等の諸外国を訪問した経験をお持ちの方でした。昨年の同窓会にも御出席されたと思いますが、総会御参加の皆様方も御記憶と存じますが永年海軍軍人として鍛えたせいで年令を感じさせない程背筋を伸ばした姿勢で総会の乾杯を何

回か撮って戴いておりました。服装も棒タイを愛用して上品に瀟洒に着こなしておられたのも外遊の経験が為せる業と云う可きでしょう。海軍大佐で終戦を迎えて戦後は西堀通り三に公認会計事務所を設けて不動産鑑定士として公職にも関係したり海軍の兵歴を生かして船員労働委員等々幾多の公職を歴任された輝かしい経歴をお持ちの方でした。御子息も海軍予科兵学校にも進学し医者として功を果した55回の征雄さん第四銀行OBの58回の祥夫さんが喪主を立派に務められました。亡くなられる前年迄青山同窓会の総会を欠かさずに御出席を戴いた母校愛に想いを致し乍ら心から哀悼の意を捧げる次第です。合掌。

# 母校は今

本年度入試から、普通科で学区外からの受験を認め、募集定員の十五パーセント以内で合格させることが可能になった。どういふ変化がおこるか予測がつかないが、この三月から実施される。

平成七年の理数科の新設に始まり、平成十年の普通科の推薦制度の導入、そして今回と、入試制度の大改革が続いた。今回

で一段落だが、入試業務が多岐に渡りだんだん煩雑になってきたことは否めない。

根本理念は受験機会の増大とその均一化(公平化)というところで、もとより異を唱えるつもりは毛頭ないが、屋上屋を架すような数字の操作はなんとかならないものか。

その入試制度と関係ありやなしや、現在の二年生で女子の数が男子を上回っていることは夙に有名(?)である。今度はそれを標榜した女子の生徒会会長と副会長が誕生した。

去る十二月十九日に生徒会立合演説会が行われ、会長、副会長にそれぞれ一名二年生女子が立候補した。そして女子の多い学年から女子の会長が出ていいではないかと主張して信任投票の結果高い率で信任されたもの。

このところ生徒会の選挙は笑いを取るためのパフォーマンスといったようなものになっていただけに、真面目な物言いがかえって新鮮に聞こえて、好感がもてた。

女子の生徒会長は、過去昭和五十九年の前期に初代が誕生、続く昭和六十二年前期には女子の正・副会長のそり踏みが実現している。それよりうんと以

前にも、という話も出るがそれは副会長のこのはず。いずれにしろ、本校はその面では性差意識がなく、早くから開けていた。今年平成十三年の青陵祭の出来やいかに、お手並み拝見というところ。

新校舎の建設もいよいよ大詰め。この十月に体育館(第一・第二アリーナ、柔道場、トレーニング室他)が開館し、生徒が嬉々として走り回っている。その第一アリーナのステージ正面に校章が取り付けられた。

直接制作にあたられた小林智明さん(60回・萬国徽章工業)をはじめ、学校内外から様々な助言・提言をいただいた、立派なものが完成した。

高さ一、五メートルという大きさが聞いてみなければ信じられないほど、周りに溶け込んでいる。光沢を消した海老茶が壁の木目とマッチして静かな威厳を漂わせる。まるで最初からそこに在ったかのように違和感がない。体育館を既にご覧になられた方々も、もう一度この校章が加わった段階で眺めてみる価値はあると思う。

校内幹事 山田 栄(69回)

同 同 同 同

## 校舎竣工・百年周年記念行事について

昨年来、皆様にご寄付をお願いしてきておりますが、標記の行事(事業)につきまして、内容が具体化してきましたのでご報告いたします。

平成十三年校舎改築の完成を期して翌十四年に当る本校創立百周年を記念する会を前倒しし、併せて記念事業・行事を行う、というところは既にご案内のとおりです。事業の概要は三千万円の募金(内同窓会二千五百万円)と新校舎の施設の充実(新体育館・講堂の綴帳・他)です。

平成十年秋に実行委員会を発足し、準備を進めてきました。去る平成十二年十一月六日、最初の実行委員会全体会(同窓会・PTA・学校三者合同)を開き、次のことを検討・了承しました。

- 一、組織図について(略。準備段階からの、同窓会関係主要部署を次に挙げる。)
- 実行委員会会長 上村光司
- 常任委員 厚地 武
- 同 小林 亨
- 同 敦井 栄一
- 同 早福 卓

### 青山同窓会収支決算書・収支予算書

(自 平成11年4月1日 至 平成12年3月31日) (自 平成12年4月1日 至 平成13年3月31日)

収入の部		平成11年度決算額	平成12年度予算額
科 目		円	円
繰越金	3,751,791	3,580,000	
入会金	1,176,600	1,040,000	
会費	6,925,500	5,500,000	
雑収入	1,769	1,000	
合計	11,855,660	10,121,000	

支出の部		平成11年度決算額	平成12年度予算額
科 目		円	円
人件費	1,376,220	1,250,000	
通信費	1,634,216	2,000,000	
印刷費	451,866	600,000	
慶弔費	97,010	150,000	
会報印刷費	782,145	1,000,000	
会議費	1,518,364	1,600,000	
卒業生記念品代	259,350	300,000	
補助費	1,080,945	1,300,000	
退職積立金	100,000	100,000	
諸費	211,196	260,000	
予備費	764,341	1,561,000	
合計	8,275,653	10,121,000	

次年度繰越金 3,580,007円  
平成12年5月10日  
上記の通り相違ないことを確認致します。

監事 早福 卓  
監事 上杉 雅之

以上です。このうち、事業については新校舎の完成と共に既に着々と設置中であります。また、行事についても期日の決定を受けて、具体的に動いております。新年度初めには式典の内

- 一、組織図について(略。準備段階からの、同窓会関係主要部署を次に挙げる。)
- 二、事業について
  - ステージ式幕(体育館・視聴覚教室) 二
  - 柔道畳
  - トレーニング器具一式
  - 校地内植栽等環境整備
- 三、記念式典について
  - 期日平成十三年十月二十日
  - 記念式典
  - 記念講演
  - 祝賀会

同 同

総務部長 上杉雅之  
 事務部長 石田瑞穂  
 行事部長 北村泰作  
 山内幹夫 石本隆太郎

容や参加意志の確認等、直接ご連絡いたすことになると思います。よろしく願います。

実行委員会 事務局

## 編集後記

☆二十一世紀おめでとうございませう。今年の秋、新校舎竣工・創立百周年記念式典が行われますが、この記念募金にご協力いただいた同窓各位のご芳名を掲載致しました。ありがとうございます。

☆新しい世紀に新しい校舎、どんな新しい後輩が育つか、母校へ夢と期待が膨らみます。☆同窓会も各期、各様の集まりが紙面をにぎわしています。幹事諸君ご苦労さん。参加の皆様ありがとうございます。さて、二十一世紀の同窓会はどんなになって行くのでしょうか。(石)

平成十二年度青山同窓会会費納入者名簿

(4月より12月まで納入済みのもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願いいたします。

1口1,000円。なるべく2口以上でお願いします。

(郵便振替口座 00650-7-4455 青山同窓会)

27回内山原浦	T9年一	真松山湯吉渡	柄田田浅井	慎一金市	平郎郎作典雄	夫哉三郎雄	手富中原馬	島所田 場	惠強神泰吉	昭哉郎三	敏元 三	作 敏	閔 高	文 志	雄誠修	建次男	原島林	栗小小	久茂松	雄修郎	繁幹昌	田村山	中中西	夫男
28回山原浦	T10年一	41回	41回	信 鋪久富	一 二郎雄	一 壽大三	手富中原馬	浦川卷川	幸 敏	三 衛	三 真	敏 東	高 高	志 忠	修 行	建 次	井 井	久 茂	修 郎	直 政	山 脇	中 中	夫 男	
31回小松	T13年夫	10回	10回	久富一	雄 三	健 敬	手富中原馬	川田木山	良 富	衛 三	純 光	良 吾	竹 田	赫 茂	行 夫	男 浩	井 井	茂 松	修 郎	保 正	山 脇	中 中	夫 男	
32回村島	T14年夫	10回	10回	一 郎	雄 三	百 賢	手富中原馬	川田木山	富 照	衛 三	純 光	良 吾	竹 田	赫 茂	行 夫	男 浩	井 井	茂 松	修 郎	保 正	山 脇	中 中	夫 男	
33回村島	T15年夫	10回	10回	一 郎	雄 三	賢 邦	手富中原馬	川田木山	照 隆	衛 三	純 光	良 吾	竹 田	赫 茂	行 夫	男 浩	井 井	茂 松	修 郎	保 正	山 脇	中 中	夫 男	
34回野塚	T15年夫	10回	10回	一 郎	雄 三	清 由	手富中原馬	川田木山	欣 一	衛 三	純 光	良 吾	竹 田	赫 茂	行 夫	男 浩	井 井	茂 松	修 郎	保 正	山 脇	中 中	夫 男	
35回野塚	T15年夫	10回	10回	一 郎	雄 三	清 由	手富中原馬	川田木山	欣 一	衛 三	純 光	良 吾	竹 田	赫 茂	行 夫	男 浩	井 井	茂 松	修 郎	保 正	山 脇	中 中	夫 男	
36回野塚	T15年夫	10回	10回	一 郎	雄 三	清 由	手富中原馬	川田木山	欣 一	衛 三	純 光	良 吾	竹 田	赫 茂	行 夫	男 浩	井 井	茂 松	修 郎	保 正	山 脇	中 中	夫 男	
37回野塚	T15年夫	10回	10回	一 郎	雄 三	清 由	手富中原馬	川田木山	欣 一	衛 三	純 光	良 吾	竹 田	赫 茂	行 夫	男 浩	井 井	茂 松	修 郎	保 正	山 脇	中 中	夫 男	
38回野塚	T15年夫	10回	10回	一 郎	雄 三	清 由	手富中原馬	川田木山	欣 一	衛 三	純 光	良 吾	竹 田	赫 茂	行 夫	男 浩	井 井	茂 松	修 郎	保 正	山 脇	中 中	夫 男	
39回野塚	T15年夫	10回	10回	一 郎	雄 三	清 由	手富中原馬	川田木山	欣 一	衛 三	純 光	良 吾	竹 田	赫 茂	行 夫	男 浩	井 井	茂 松	修 郎	保 正	山 脇	中 中	夫 男	
40回野塚	T15年夫	10回	10回	一 郎	雄 三	清 由	手富中原馬	川田木山	欣 一	衛 三	純 光	良 吾	竹 田	赫 茂	行 夫	男 浩	井 井	茂 松	修 郎	保 正	山 脇	中 中	夫 男	